平成 30 年 5 月 31 日
佐賀大学理工学部

「第 7 回日韓危機管理セミナー(The 7th Korea-Japan Crisis & Emergency Management Seminar)」を開催

【概要】

「第 7 回日韓危機管理セミナー(The 7th Korea-Japan Crisis & Emergency Management Seminar)」が平成 30 年 5 月 25 日～26 日に開催されました。1 日目は日本、韓国、中国などの研究者や学生、行政関係者が集まり、危機管理に関する研究発表と意見交換を行いました。2 日目は、熊本地震や朝倉の九州北部豪雨の被災地復興について現地を視察し、International Workshop を実施しました。

【本文】

日本、韓国、中国などの研究者や学生、行政関係者が集まり、災害危機管理に関する研究発表と意見交換等により被災者のための自治体と災害レジリエンス強化に繋げることをテーマとして、「第 7 回日韓危機管理セミナー(The 7th Korea-Japan Crisis & Emergency Management Seminar)」が平成 30 年 5 月 25 日（金）～26 日（土）に開催されました。本セミナーは、佐賀大学理工学部都市工学科の主催のもと、韓国忠北大学国家危機管理研究所および Crisis and Emergency Management: Theory and Praxis Global Crisisonomy Institute の共同主催、ならびに佐賀大学と国際低平地研究協会の共催で行なわれました。

1 日目の 5 月 25 日（金）は、佐賀大学理工学部 6 号館 2 階多目的セミナー室において、9:30 から 17:00 までセミナーが開催されました。開会式では、大串 浩一郎 実行委員長（理工学部教授）と後藤 聡 理工学部副学部長・教授の挨拶の後、参加者全員での写真撮影がなされました。続いて、佐賀県消防防災課災害対策・国民保護担当の大石 知己 氏より「佐賀県における防災への取組」、国土交通省武雄河川事務所副所長の的場 孝文 氏より「佐賀平野における風水害への諸対策」について特別講演が開催されました（全て韓国語の通訳付き）。

その後、韓国忠北大学校の Jae Eun Lee 教授、聖徳大学の北川 慶子 教授、中国科学院の Chen An 教授や、その他の日本、韓国、中国の研究者、学生などから多岐に渡る危機管理、防災・減災などに関する研究が合計 19 件英語で発表されました。

参加者は約 40 名で、そのうち韓国の研究者・学生が 12 名、中国の研究者・学生が 4 名、日本国内から 20 数名の参加があり、活発な議論が繰り広げられ、非常に実りあるセミナーとなりました。なお、同日夕方には NHK 佐賀放送局より本セミナーの報道がなされました。

参加者全員の写真撮影

2 日目の 5 月 26 日（土）は、熊本市・朝倉市の視察が行なわれました。バスで移動し、最初に訪れたのは、熊本市の新聞博物館（熊本日日新聞社内）でした。5 月末まで平成 28 年 4 月の熊本地震の報道企画展が開催されており、参加者は沢山の新聞記事や写真に目を離さずにはいられないほど見入っていました。その後、熊本地震で被災した熊本城へ移動し、熊本城が相当の揺れで倒壊したことが理解され、また、復旧にはまだまだ時間がかかることを感じてもらいました。

続いて、平成 29 年 7 月九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市に移動しました。平成 30 年 4 月に開設されたばかりの九州北部豪雨復興出張所の担当の方に説明して頂きながら、赤谷川の下流域と中流域（乙石川）を視察しました。この豪雨がきっかけとなって土砂や流木によりさらに被害が大きくなったことを知り、韓国の研究者も非常に真剣に話に聞き入っていました（韓国側からは複数の日本語を話せる研究者が同行し、日本語による説明内容を韓国語に翻訳されていました）。2 日目の参加者は日韓の研究者・学生合わせて 18 名でした。韓国ではこれほどまでの災害現場を見ることはなく、非常に生々しい現場の光景とそこでどのような復旧活動が行われたのかを知ることができ、今後の危機管理に関する研究や国際交流に大いに寄与する一日でした。

今回の第 7 回日韓危機管理セミナーでは多くの参加者と活発な意見交換、近年九州で発生した自然災害の現地視察などの実施により、非常に実りある有意義なセミナーとなりました。なお、この日韓危機管理セミナーは次回、来年 6 月に韓国済州島での実施となることも決まりました。

日韓危機管セミナー開会式の様子

熊本城の被災現場視察

朝倉市赤谷川の復旧現場視察

乙石川（赤谷川の上流）の復旧現場視察